漆芸の聖地 世界展開へ一歩

輪島塗 若手人材養成プロジェクト

「一筋の光が注いできた」「これをバネにもっといい産地に」――。石川県が輪島塗の若手人材養成施設を整備することに対し、地元から歓迎の声が上がっている。輪島市で漆芸美術館、漆芸技術研修所、精漆工場が集まるエリアに、産業観光の機能も担う施設ができれば、一帯は「漆芸の聖地」になる。インバウンド（訪日外国人客）需要も期待でき、海外展開に打って出る契機にもなりそうだ。〈本文記事1面〉

養成施設が整備されるエリア。手前のカギ形の建物が輪島漆芸美術館。その右が精漆工場。道路を挟んだ2棟の細長い建物が輪島漆芸技術研修所（25日）＝尾賀聡撮影

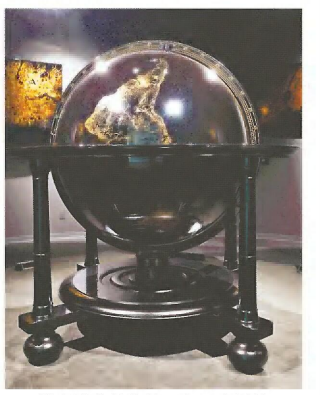
「輪島塗にとって職人は宝で、いないと前に進まない。その養成施設を作ってもらえるのは、本当にありがたい」。輪島漆器商工業協同組合理事長の日南尚之さん(65)は、喜びを語る。

輪島塗は、専門技術を持った職人が分業で支えている。しかし、バブル崩壊以降、従事者数は減少傾向にある。さらに、能登半島地震による被災で輪島を離れた人も多く、生産体制は危機的な状況という。

同組合理事、中室耕一郎さん(51)が経営する漆器製造販売「輪島屋善仁」でも、震災で店舗や工房、倉庫に甚大な被害が出た上に、職人3人が離職した。そこで取った行動が、店の展示スペースを作業場に替え、少しでも早く制作を再開することだった。

中室さんは「当面、観光客は見込めない。建物や品物は時間とお金をかければ取り戻せるが、職人の技を失うのが一番怖かった」と話す。その後、職人1人を呼び戻し、新人を2人採用したが、こうした若手を育てる体力のある事業者は一部に限られる。「公的なサポートは大変心強い。まち全体で新人を育てることが叶えばありがたいと、ずっと思っていた」

漆芸家の古込和孝さん(47)は、養成施設が産業観光の拠点となり、そこで学ぶ若者や彼らの作品自体が一つのブランドになることを期待する。「若者が制作に励む様子を積極的に見せ、作り手と買い手がつながる場所になってほしい。自分もかつて、若い人だから応援したいというお客様に支えられた。施設を訪れた人に、若手職人の〝推し〟を作ってほしいんです」


輪島漆芸美術館にある大型地球儀「夜の地球」。輪島塗技術保存会が総力を結集した作品で、震災でも無傷で残った

また、古込さんは人気小売店の経営者から、「まとまった数の輪島塗を注文できるか」という相談を受けたといい、養成施設で質の高い輪島塗を手早く仕上げる技術を身につけた若者が、それを担うというアイデアも提示する。

坂口茂・輪島市長は「しっかりと訓練を受け、職人としてのスキルを身につけられる場が創設されることは、大変ありがたい。輪島塗がさらなる発展をするためにも、養成施設と（芸術性を追求する）輪島漆芸技術研修所の両方がそろうことは本当に心強い」と話す。

県立輪島漆芸技術研修所は、人間国宝らが講師を務める漆芸技術の継承拠点だ。講師の一人である輪島塗技術保存会会長の浦出勝彦さん(69)は「漆芸の技術を学んだ人でも、暖を広げていかないと仕事を続けるのは難しい。知識を重ね、ビジネスができる人を育てることは大事」と話す。研修所の卒業生らが養成施設で新たな学びを得ることも歓迎し、「協力を求められたら、できる限り力を尽くしたい」と、連動に前向きだ。

養成施設は、海外展開やマーケティングについても学べる場所となる。また、研修所や県輪島漆芸美術館、組合の精漆工場が集まるエリアに建設されることで、一帯は漆芸の聖地として注目を集める。髹漆（塗り）の人間国宝で、研修所長の小森邦博さん(79)は、「本当にその通りだと思う」と賛意を表した上で、「輪島塗の将来をどうするのか、しっかり考えていかなくてはならない」と話す。

小森さんはかつて「漆聖」とたたえられた師、松田権六に「エジプトや米西海岸に持っていっても壊れない漆器を作りなさい」と言われたという。「漆器は乾燥に弱い。国内向けなら今までの輪島塗でいいが、世界に行くなら、見えない木地づくりから手をかけなければいけない。施設整備には今、輪島塗に何が足りないかを検証した上で取り組むべきだ」と指摘する。

若手人材を育成するプロジェクトをきっかけに、輪島塗の関係者が一体となって知恵を出し合う機運が醸成されつつある。地震で大きな被害を受けた輪島塗が再生し、世界中にその名を響かせるための大きな一歩となりそうだ。

独自の素材・手法で工程100超

輪島塗の漆器（東京都中央区の八重洲いしかわテラスで）

日本を代表する漆器、輪島塗。堅牢優美と形容される魅力は、独自の製造工程と長年継承されてきた高い技術に支えられている。

100を超える製造工程は、木材を成形する木地づくりに始まる。特徴的なのは、地の粉と呼ばれる輪島市の小峰山で採取される珪藻土を下地に使うこと。「布着せ」と呼ばれる布をかぶせる作業を施した上に、地の粉を混ぜた漆を塗る。地の粉入りの漆は固く、ハケではなくヘラで塗るというのも輪島流だ。

文箱を蒔絵で彩る輪島塗職人

輪島塗の漆器（八重洲いしかわテラスで）

中塗り、上塗りの工程で漆塗りや研ぎを繰り返してツヤを出し、鏡面のような光沢のある漆器となる。さらに、文様を描く加飾という工程では、漆で描いた絵の上に金粉をまく蒔絵や、刃物で文様を彫った溝に金箔などを押し込む沈金といった技法を用い、美しい漆器が完成する。

沈金は、厚みのある輪島塗の仕立てならではの技法ともいえ、輪島に現在3人の人間国宝がいることも象徴的だ。

だが、若手の担い手は少なく、育成は喫緊の課題だ。

生産額は、バブル期にピークを迎え、2022年度は約24億円と7分の1以下になった。後継者不足も深刻で、60歳以上が従事者の3分の2を占めている。

それでも、日本を代表する漆器産地に変わりはない。輪島塗は重要無形文化財（保持団体・輪島塗技術保存会）の指定を受け、伝統的工芸品にも指定されている。

備前焼 市長が海外でPR

輪島塗が世界を目指すために、何が必要か。国内の先進事例を紹介する。

錫製品など鋳物製造の「能作」（富山県高岡市）は、高い技術で世界から注目を浴びる。米国や東アジアを中心に各国の小売店が商品を取り扱うほか、2022年には台湾に店舗を開設。アジアでは内側に金箔を施したぐい飲みがヒットし、欧米では真ちゅう製のキャンドルホルダーが売れている。

海外への営業活動ではなく、産業観光に尽力しているのがポイントだ。「英語でもご案内する工場見学に、海外のバイヤーが増えている」（同社）という。

「旨田陶園」（佐賀県有田町）は、デザイナーと協業して設立した新ブランドで有田焼に新風を吹き込み、20か国以上と取引がある。イタリア・ミラノの世界的デザインの祭典「ミラノデザインウィーク」への出展を契機に、評判を広げてきた。

行政の支援も重要だ。同祭典には今春、岡山県備前市の備前焼が海外販路の開拓を狙って出展。吉村武司市長自ら乗り込み、作家6人を現地に紹介した。

「水玄京」（京都市）は日本のものづくりを、海外向けの動画でアピールする。2年半前、角居元成社長(27)らが起業。「銀器を10万回叩いて制作する」という「プロセス」に迫った動画をユーチューブで公開。職人がひたむきに制作に打ち込む姿は美しく、全動画の総再生回数は約2億回に及ぶ。関連商品の購入へ誘導するECサイトの側面も持つが、角居社長は「外国人観光客が直接、工房を訪れるケースも多い。我々を通さなくても、日本の職人が世界から注目を浴びればいい」と話す。

水玄京が作成した畳の製造風景動画

アジアで人気を博す「能作」の金箔貼り錫製酒器

広告

企画・制作／ディーエムネットワーク

お取り寄せ

※いただいた個人情報は、商品の発送、およびご案内以外には一切使用いたしません。

国産大麦100%の「ご褒美ケーキ」

わけあり大麦栗テリーヌ ●㈱大麦工房ロア

大粒栗にびっくり。ちょっとのひびや欠けがあるだけで、正規品と変わらない味

自社栽培する大麦は今年も豊作（佐藤チーフパティシエと中村農場長）

「栗がごろごろ！」と驚きの声が上がるケーキがある。㈱大麦工房ロア（栃木県足利市）の「わけあり大麦栗テリーヌ」。栃木県産大麦100%を使用した栗入りパウンドケーキで、まず生地になめらかさをアップさせるためホワイトチョコレートを練り込む。渋皮煮と甘露煮、2種類の栗をたっぷり加えたらオーブンへ。小麦なら高温・短時間で焼き上がるところ、大麦だけを使用した同商品は、独自の温度管理技術を駆使。低温でじっくり焼き上げる。仕上げにラム酒を吹き付けることで、しっとり質感に。

「ここ足利市は、日本を代表する大麦の生産地なんです。農地を再生し、社員が精魂込めて原料の大麦を育てています」と話すのは、同社代表取締役の浅沼誠司さん。

1本約400㌘で、手にするとずっしりと重く感じる。さらに、この1本にレタス30個分※1の水溶性食物繊維と、ヨーグルト6銘分※2の乳酸菌が配合されている。おいしいだけでなく、身体に優しいスイーツなのだ。

ところで「わけあり」の理由は、焼成による角のつぶれという。見た目も気になるほどではなく、味も包装も正規品と同じなので、自家用はもちろん、手土産にする人も多い。数量限定なので、早めの申し込みがおすすめだ。

※1 レタス可食部2～5㌘を1個として計算 ※2 乳等省令に基づきヨーグルト1㌘当たりの乳酸菌数を10億個として換算 ＊賞味期限／60日

申込 MOSHIKOMI

わけあり大麦栗テリーヌ

プレーン1本（約400㌘）通常価格5,184円を約61%オフの特別価格**1,980円**で。送料935円。2本以上購入で送料無料。※沖縄県への発送は本数に関わらず1,650円必要。すべて税込。3本購入で「大麦バターサンドマロン」を2個プレゼント。先着100本限定。1世帯3本まで。贈答品不可、送り先は本人のみ。申込番号：S-749

3本購入で「大麦バターサンドマロン」をプレゼント

●㈱大麦工房ロア
〒326-0005栃木県足利市大月町3-1
☎0120-123-744（9時～18時受付）
FAX0120-44-1920（24時間受付）

インターネットの注文はこちらから

FAX・ハガキでの申込は、申込番号、わけあり大麦栗テリーヌ、注文数、電話・FAX番号、住所、氏名（フリガナ）、生年月日を明記。商品は注文受付後、2週間前後でお届け。支払いは商品到着後7日以内に、郵便振替またはコンビニ払い。開封後の交換・返品は不可。

ペットにもやさしい、植物の力で素早く消臭

ニオイノンノスプレー ●㈱フローラ

植物由来だから大切なペットにもやさしい「ニオイノンノスプレー」

「家中の猫の臭いが瞬時に消えて、すがすがしい空気に。気に入ってます」介護中のお部屋で重宝しています」

しっかり消臭したいけれど、安心面も気になるなら、㈱フローラ（三重県四日市市）の100%純植物性消臭液「ニオイノンノスプレー」がおすすめだ。

「原料は松、椿、カタバミの抽出エキスのみ。植物に含まれるフラボノイドが、臭いを吸収・分解・消臭します。防腐剤にも天然由来のみを使用。大切なペットにもやさしいです」と開発室長の杉山孝雄さん。もちろん、石油系物質類も含まれていないという。

実は同社は、世界50カ国以上の国々で愛用されている植物活力液「HB-101」の製造販売元。「ニオイノンノ」は、発売から40年以上のロングセラー商品だ。

今回紹介する「ニオイノンノスプレー」は、その原液を薄める手間を省いたスプレータイプ。

臭いが気になったときに「シューッ」と吹きかけるだけ。ソファやベッドなどモノに染み付いた生活臭や加齢臭、タバコ臭もあっという間に消臭してくれる。

「もう必需品です」という愛用者の声を、自宅で確認してほしい。

申込 MOSHIKOMI

ニオイノンノスプレー

1本（500cc）通常価格1,100円。お得な5本セット（500cc×5）なら**4,100円**、いずれも税込。送料700円。※㈱フローラの商品購入が初めての人に限り送料無料。一家族一回限り。係名：読売2係

5本セットならお得

●㈱フローラ
〒510-0855
三重県四日市市朝日町3-39
☎0120-86-1261
（6時～24時受付／年中無休）
FAX059-345-4164
（24時間受付）

FAX・ハガキでの申込は、①郵便番号②住所③氏名（フリガナ）④電話番号⑤生年月日⑥商品名⑦数量⑧支払い方法（郵便振替・代金引換・コンビニ払い）⑨読売2係を明記。商品は注文確認後5日以内にお届け。支払いは郵便振替・コンビニ払い・代金引換。返品は未開封に限り、商品到着後8日以内（返送料自己負担）。